

【出席率】 会員61名中46名

【先々週の出席率】 94. 74%

【先週のメイクアップ

3/22 PETSへ

安達 裕君 赤塚 寧君 荒澤 威彦君
 馬場信彦君 銅冶康之君 船久保孝志君
 長谷美津明君 長谷川晴生君 星野健司君
 馬場信彦君 銅冶康之君 船久保孝志君
 熊倉高志君 松崎孝史君 蕪澤喜一郎君
 野島廣一郎君 野中 悟君 野崎正明君
 齋藤嘉一君 坂井栄作君 坂本洋司君
 佐藤栄祐君 佐藤秀夫君 佐藤嘉男君
 鈴木囀彦君 鈴木 武君 谷 晴夫君
 田代徳太郎君 若井 博君 渡邊光郎君
 吉田秀治君 吉井正孝君

3/24 地区クラブ奉仕委員会へ 荒澤威彦君

3/25 三条北RCへ 野島廣一郎君

3/26 三条RCへ 丸山徹夫君

3/29 直江津創立50周年記念式典へ

馬場信彦君 長谷川晴生君 丸田肇一君
 西巻克郎君 佐々木常行君 佐藤栄祐君



国際ロータリー会長

ウィルフリッドJ. ウィルキンソン [カナダ]

第2560地区ガバナー 渡辺 敏彦 [新潟南]

第4分区AG 藤井 三明 [分水]

会 長 坂本洋司

幹 事 船久保孝志

S A A 大溪秀夫

事務局

〒955-8666 三条市旭町2-5-10

三条信用金庫本店内

☎0256-35-3477 Fax 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL <http://www.sanjo-minami.jp>



会長挨拶

吉井 正孝 会長エレクト



こんにちは。坂本会長に代わり、ご挨拶をさせていただきます。

先々週の例会時、今日の「留守番」を頼まれ、3月22日のPETSの話でもしたら如何・・・、とのご託宣もあって、今日はその話を中心に、ご挨拶に代えたいと思います。

恥ずかしい話ですが、6ヵ月前まで、私は「PETS」という英語の略字も、その会議の意味も判らない会長エレクトでした。渡辺ガバナーが、開会の挨拶の冒頭でおっしゃっていた様に、PETの「複数形」くらいの認識しかかった人間でした。この会の実行委員長、佐藤栄祐先生の処へ歯科治療に伺った折、「3月のPETSが終わると、新年度は瞬く間だよ」と言われて、ああそうかな・・・と思いながら、手元の資料に目を通し始めた・・・と言うのが実際だったのです。そして迎えた3月22日当日・・・。

好天に恵まれ、春の暖かい陽射しが会場のVIPを包み込んでいました。

開会宣言に始まり、点鐘、そして馬場ガバナーエレクトの米国サンディエゴでの国際協議会出席報告と、一連のセレモニーが終わり、午前のメイン・プログラム、作家で東洋思想家、境野勝悟先生による「和の心」を一時間に亘り拝聴しました。大学の教育学部卒業の後、中高一貫でミッション系の私学「栄光学園」で18年間の教員生活の後、西欧各地に赴き教育事情を視察。

その後、神奈川大磯に私塾を開設。本格的に東洋思想の研究活動に入られたのという経歴の先生でした。

氏は講演の中で、日本民族のルーツを「農耕民族」と定義。その民族的な性格の違いや宗教観について、「狩猟民族」「騎馬民族」等と比較されておられました。「和を以って尊しと為す」や聖徳太子のご聖文「広く会議を興し、万機公論に決すべし」等、農耕民族の優れた意思決定の方法や、生活規範についても具体的に触れておられました。

ただ私の個人的な感想としては、お話の内容はともかくとして、日本人の農耕民族としての、優れた特質も、時代の潮流の中で大きく変化し、様々な局面で全く異なった現象として表れてきている「現実」を、直視せざるを得ないと言う、どうにもならない矛盾と空虚さも同時に覚えた講演でした。近年、経営者の間で、「老荘思想」が改めて見直され、学問として東洋思想を学ぶ人が増えてきているという事実は、自己反省も含め、この辺の「矛盾」に起因したものではないか・・・、と想像します。この後「地区協」「地区大会」と、2つの機会でお話される境野先生の続編、続々編の講演に期待しております。

昼食後、午後の講師、パワー浜松R原田道子会員による講演「何故、会員が増加するの？」をテーマにした講演をお聴きしました。

2002年の創立で、10年にも満たない比較的新しく元気なクラブ。産業の立地条件としても、恵まれた気象条件と共に、自動車やオートバイ、楽器等、産業の集積度も高く、元気な地域に在るクラブ。ここの元気なオバさんが、これまでのロータリーの既成概念に囚われることなく、自由奔放に「会員増強」をはじめとするRC活動に奔走するパワー溢れる姿を見せていただきました。ただその中で、参考にすべきは、「職業分類に基づく会員増強」と、会員として迎えたい人の拾い出しを、「全会員を対象」に意識的に進めておられる様子は、われわれも原点に立ち返って考えて行かなければならない大切な事柄と感じました。

その後は、各分区ごとのグループ討議。我々は、第4分区吉田RCのAG古井リーダーの元で進められたグループ討議でしたが、初めはなかなか噛み合わなかった討議も、進行役の当クラブ、松崎さんが上手にまとめあげ、最後は各クラブ共通のテーマ、「会員増強を進めるには・・・」の一点でようやく集約化もでき、会議は無事終了しました。

PETS当日、私と鈴木幹事は主催クラブでありながら、一方では、研修を受けるある面、客の立場……。多くのPETS参加者の陰で、会議の成功に向け、キビキビと働くわが南RC会員の姿に頭を下げながら、会長エレクトとして初めての研修の機会を終えることができました。会員各位のご努力に厚く敬意と感謝を申し上げますと共に、PETSの成功を心からお喜び申し上げます。有難うございました。

表彰

ご協力に感謝申し上げます

ポールハリスフェロー 野中 悟 君

幹事報告

船久保 孝志 副幹事

●渡辺ガバナー事務所より ロータリーレート変更のお知らせ

4月1日より 1ドル 現行108円 → 98円

●馬場ガバナーエレクト事務所 地区協議会実行委員会より

①地区協議会、出席及びご協力をお願い（全会員対象）

【とき】2008年 5月17日（土） 【ところ】県央地域地場産業振興センター

②地区協議会拡大実行委員会（事前打合せ会）のご案内

【とき】2008年 4月26日（土）15:30～ 【ところ】県央地域地場産業振興センター 5F

※全会員対象、出欠連絡はガバナーエレクト事務所（TEL 32-7041 FAX 32-7320）へ



4月のお祝い

* おめでとうございます *

会 員 誕 生

2日 佐藤栄祐君 11日 野水孝男君 14日 安達 裕君
17日 大久保秀男君 20日 若井 博君

夫 人 誕 生

8日 野崎裕子（正明）さん 14日 渡邊ノブ子（久晃）さん
22日 大久保昭子（秀男）さん 30日 馬場静子（一敏）さん

結 婚 記 念

5日 坂本洋司君・満寿子さん 9日 鈴木園彦君・朝子さん 10日 渡邊久晃君・ノブ子さん
10日 吉田秀治君・スミエさん 13日 馬場茂夫君・和子さん 15日 大久保秀男君・昭子さん
17日 丸山徹夫君・光子さん 26日 木原 崇君・洋子さん 26日 野島廣一郎君・優子さん
29日 松崎孝史君・恵さん 29日 山村 登君・良子さん

一週間の振り返り・・・心とほほえましいお話をBOXに
ニコニコボックス

～ 3月31日 30,000円 今年度累計 794,000円 ～

- 吉井君 3/22 P E T Sの開催にあたり皆様大変ご苦勞様でした。おかげでまた一歩覚悟が決まっ
てきています。ご協力よろしくお願ひ致します。
- 船久保君 佐藤秀夫さん、卓話よろしくお願ひ致します。
- 馬場(信)君 「P E T S」では、佐藤栄祐実行委員長のもとしっかりと運営していただいて有難うご
ざいました。参加の皆様からさすがと評価をされています。有難うございました。
- 蕪澤君 P E T S無事終了しました。佐藤実行委員長始め関係各位に感謝申し上げます。次回は
地区協議会です。全会員のお力、ご協力をお願い申し上げます。
- 佐藤(秀)君 卓話当番です。まとまりのない話となりますが、しばらくお付き合い願ひます。
- 武藤君 友人の閉院お別れ会に青森へ旅行して来ました。賑やかでした。
- 坪井君 昨日、息子一家が三条に帰って来ました。同居です。いままで静かだった我家も急に賑
やかになりました。
- 西巻君 ○佐藤秀夫さん、本日の卓話ご苦勞様です。
○29日(土)直江津R C 50周年式典にクラブ40周年実行委員会の一員として勉強を兼
ねて出席してきました。大変参考になりました。同伴の方々お世話になりました。
- 長谷川君 ○弥生3月も今日で終わり、早や桜の開花が待ち遠しい好季節を迎えます。
一昨日、直江津R Cの50周年記念行事に参加して来ました。
○田中先輩に協力して
- 佐藤(栄)君 一足お先に我家に桜が咲きました。
- 住谷君 田中さんがB O X担当ですとお兄さんを思い出します。一度お参りに寄せていただきた
いと思います。
- 嘉瀬君、木原君、坂井(範)君、鈴木(圀)君、田代君、馬場(一)君、渡邊(久)君
佐藤秀夫さん、卓話ご苦勞様です。楽しみにしています。
- 安達君、石山君、滝口君、銅冶君、野崎君、馬場(茂)君、丸田君
B O Xに協力致します。
- 田中(悌)君 皆様の心暖かい善意に感謝致します。

卓話

「雑感」

佐藤 秀夫 会員

ロータリー入会は、昭和59年10月、武藤会長さん年度でした。武藤さんには、何かとお世話になっ
ていた頃でした。ロータリーは、一業種一社の集まりだから、君もどうかね・・・と誘いを頂きました。
その頃の私は、仕事と子育ての真っ最中の48歳でした。長男は東京の大学におり、次男も大学進学を控
え、いろいろと雑事の多い頃でした。すごくありがたい話でしたが、すぐにハイと言える状況ではありま
せんでした。その後、因縁があり、仲間にさせて頂きました。

早いもので、22年が経ち、よく続いたものと自分なりに感心しています。私自身、親の年齢を20年以
上も上回り、6回目の年男となりました。人生の、一つの役目を果たせたと思っています。卓話もこれが
最後かな・・・と？

この間、多くの人との出会いがありました。行動範囲が限られていた私にとって、このロータリーとの
出会いは、多くのことを学び、また体験をさせて頂きました。何度か海外旅行にも連れて行ってもらいま
した。特に、オリエント急行に乗った10日間の欧州の旅は素晴らしく、いまでも記憶にはっきりと焼きつ
いています。ロータリー会員でなければ味わえなかったと思います。

武藤会長さん年度で、私の後2人の方が入られました。

60年1月に萬屋の佐々木専務さん、高島左官の高島専務さん、6月に同業種(不動産業)の小林博久さん
です。同期ということで、色々仲良くさせて頂きました。ゴルフもその時教えてもらいました。しかし、
残念ながら、小林さんは急死され、他の2人は退会され、寂しくなりました。

私は、二つの会社勤めを経験しています。

最初は、高校を卒業して、すぐ製造メーカーに就職しました。担当は、経理、総務、労務でした。この会
社は、技術力は持っておりましたが、儲けることの手な会社でした。儲けが出ないということは、資金
担当者にとって非常に困ることです。資金手当てが出来なければ、資金ショートを起こし、会社の倒産に



繋がる、という思いが常に頭のどこかにありました。本当に経理泣かせの、会社でした。

当時は、労働組合の結成の動きも盛んでした。余計な仕事も増えるばかりで、連日残業と日曜出勤でこなしていました。無理がもとで、風邪をこじらせ、肺炎で休養するはめになりました。病気をして休んだのは、後にも先にもこの時だけです。

この会社を20年勤め、38歳で退社しました。いつかサラリーマン生活から抜け出し自分で仕事をしたい気持ちと、20年が一つの区切りと考えていたので、辞める気持ちの整理はついていました。しかし、会社との話はすんなりとはいかず、社長から旅行にでも行ってよく考えて

来いと言われ、社費で九州旅行をさせてもらいました。退社の理由は、辞める3年前に人員整理で収益の出る会社に転換したことで義理の弟が部下に居り、後継者がいたことでした。円満退社しました。

二つ目が、不動産会社でした。すでに不動産取引に必要な、主任者の資格を持っていましたので、帳面を見ながら仕事を手伝って欲しいと誘われ、興味もありましたので決めました。

不動産取引の活発な時期でした。不動産融資規制、土地売却益に対する重課等、締め付けが始まった頃でしたが、土地を求めたいという需要は衰えることは無かったので、土地を手に入れる苦労はありましたが、資金は潤沢で、日常の仕事は心配のない、充実した毎日でした。前職の経理経験も十分に活かされた15年間でした。

51歳で退職し、いまの仕事を始めました。この15年間、会員である馬場一敏司法書士さんには、いろんな面でお世話になりました。私どもは、お客さんの大切な資産を預かる以上、お客さんの条件にそった形で成約しなければなりません。そのため、解決しなければならない項目がたくさんあります。一人ではとても対応できない部分が多いのです。調査不足が命取りになりかねません。実務面では、厳しい面もありますが、緊張感の中で、確かな仕事を心がけています。

最近、仕事上、気になっていることがあります。

「アメリカのサブプライムローン」問題もそうですが、日本でのサブプライム問題は、起こらないのだろうか、気になるところです。

サブプライムローンは、普通ならば、住宅ローンを組めないような所得の低い方、信用度の低い方などに対して、優良顧客より高い金利でローンを組ませるもので、住宅価格が上昇し続けなければ成り立たないローン形態です。

2006年に入って、上昇を続けてきたアメリカの住宅市場価格が、軟化し始めたことにより返済金の延滞が始まり、住宅金融専門会社の経営に不安が発生し、融資していた大手金融機関の、サブプライムローン関連資産の不良債権化、そして、投資顧問会社が運用する資産担保証券の損失発生、更に、大手格付け機関が、資産担保証券の格下げの可能性を公表したことから、証券を買っていた投資家が一斉に売却に動いて、市場全体がパニックとなり、今に至っております。

日本の現状はどうでしょう？

1999年に政府は、バブル崩壊後の経済立て直しを目的として、多くの経済対策を採りました。波及効果が大きいとされる住宅投資で、立て続けに旧住宅金融公庫（現住宅金融支援機構）の住宅ローン条件を融和しました。ゆとり償還制度の導入です。

住宅所得額に対する融資限度額割合の撤廃。貸付金利を2.55%から2.00%へ大幅引き下げ。100%融資対象者の本人年収基準の緩和。融資限度額引き上げ など。

この緩和策は、大きな借金を抱えながらも、自分の家を持つことが出来、喜んだ人も多いのも事実です。しかし、最近になって、住宅ローンの不良債権化が顕著になっています。

リスク管理債権の増加（住宅金融支援機構の調べ）

2001年 1兆7000億円 総貸付残高に占める割合 2.37%

2006年 3兆4000億円 総貸付残高に占める割合 7.42%

この増加は、もともと貸してはいけなかった人々に貸せた・・・ということになります。

将来の見通しの甘さ、その後の経済状況や雇用情勢の変化が思ったとおりに行かず、返済能力の低下が露呈した結果となっています。信用力の高かった層（プライム）の人たちも、その後の経済状況や雇用情勢の変化に対応できず、信用力の低い層（サブプライム）に移って行った住宅ローン債務者も増加しているようです。

更に、今年は、98年秋に金利2%という史上最低金利に組んだ、旧住宅金融公庫融資の住宅ローン金利が一举に4%程度に上がる、10年目に当たります。日本全体の平均給与水準が上がらない状況の中、住宅ローン破綻者が激増し、住宅を失うことになる人々が増えるのではないかと心配されます。

破綻者が出ない、平穏な年になることを願って、卓話を終わります。